

かたみとての御詠歌

秦 氏 君 御作

松 濤 基 作曲

やさしく、普通の速さにて



○ × ○ × ○ × × ○ ×
か ー た み と ー て か た み と ー て



○ × ○ × ○ × × ○ ×
は かな き お ー や の と ど め て ー し



⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ○ ×
こ ー の わ ー か れ ー さ え また
な ー む あ ー み だ ー ぶ つ な む



○ × ○ × ○ × ×
い か に せ ー ん
あ み だ ー ぶ ー つ ー

ポイント注意

- 1小節目の「こぶし」は弱音で「た」を強く、9・10小節目の「こぶし」は力強い声から「の」・「か」を弱く表現します。

かたみとての御詠歌

はた 秦 氏 君 御作

かたみとて はかなき親の とどめてし この別れさへ またいかにせん

このお歌は法然上人の母、秦氏君がお詠みになりました。

法然上人は長承^{ちようしょう}2年(1133)4月7日、美作^{みまさか}の国(現在の岡山県)久米南条^{くめなんじょうい}稲岡^{いなか}荘にお生まれになりました。父は漆間^{うるま}時国公^{ときこう}といいます。この日、屋敷^{やしき}の棕^{むく}の木に白い幡^{はた}二流れ^{ふたなが}が掛^かかり7日^{のち}の後、天^{てん}に上^あり去^さりました。この奇瑞^{きずい}は仏天^{ぶつてん}がお誕生^{たんじ}を喜^{よろこ}ばれたことを示^ししています。幼名^{ようめい}は勢至丸^{せいしまる}と付けられました。

勢至丸9歳の時、明石源内武者定明^{あかしのげんないむしやきだあきら}の夜討^あちに遭^あい、父時国公^{ときこう}は深手^{けだつ}を負^おいます。死^{のち}に臨^まみ「敵^{かた}を恨^{にく}むなかれ、はやく出家^{しゅつが}して、私の菩提^{ぼだい}を弔^{なぐさ}い、自^{みづか}らの解脱^{げだつ}を求^{もと}めよ」と遺言^{いごん}なされます。勢至丸は、同国菩提寺^{くわんがく}の観覚^{くわんがく}の弟子^{しし}となりました。この方は秦氏君^{しんしき}の弟、勢至丸^{せいしまる}の叔父^{しやくふ}にあたります。菩提寺^{ぼだいじ}にて修行^{しゆぎやう}すること数年^{しうねん}、叔父^{しやくふ}観覚^{くわんがく}は勢至丸^{せいしまる}の学才^{がくさい}を見抜^{みぬ}き、比叡山延暦寺^{ひえいざんえんりやくじ}で修行^{しゆぎやう}することを勧め、勢至丸も同意^{どうい}しました。

観覚と勢至丸は母秦氏君^{しんしき}の所へ行き、比叡山^{ひえいざん}に登^{のぼ}ることの許^{もと}しを求めます。母秦氏君^{しんしき}は道理^{だうり}に折^よれて承諾^{ちんぐわく}しますが、気持ちの上^{うへ}では別^{わか}れの悲^{かな}しみを抑^{おさ}えることが出来^でません。その思^{おも}いを詠^よまれたのがこのお歌^{うた}です。

大意 夫である漆間時国公と死別した辛さを経験した私です。父親の忘れ形見として残し置かれたこの子勢至丸が、父の遺言に従い仏道を歩んでいます。今勢至丸は比叡山へ行き更に高い仏道修行を目指しています。弟観覚の住持する菩提寺にいるならすぐにも会えますが、ここから遠く、しかも女人禁制の比叡山では会うこともできません。長い別れになるでしょう。我が子の学業成就を願う私ですが、夫と別れ、またさらに子供とも別れる私の辛さも分かってください。